

平成 26 年度

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー

【自己点検・自己評価、学校関係者評価報告書】

平成 27 年 6 月

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー

自己点検・自己評価委員会

学校関係者評価委員会

1 本校の概況

1. 設置者 学校法人 爽青会 (理事長 中野勘次郎)
2. 学校名 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー
3. 校長名 中野勘次郎
4. 認可 平成7年3月20日
5. 開校 平成7年4月1日
6. 所在地 〒430-0943 静岡県浜松市中区北田町130-12
(TEL) 053-452-2121
7. 課程 文化・教養専門課程
8. 学校の沿革
 - 平成7年3月 専修学校制度に基づき、専修学校の認可を受ける
 - 平成7年4月 専門学校ルネサンス・アカデミー オブ デザイン開設
 - 平成17年4月 専門学校ルネサンス アカデミーに校名変更
総合デザイン学部・動物関係学部を開設
 - 平成20年3月 学校法人爽青会 認可
 - 平成21年4月 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミーに校名変更
 - 平成26年3月 設置4学科で職業実践専門課程認定
 - 平成27年4月 イラストレーション科、広告・写真・Web デザイン科で3年制課程開始
 - 平成28年4月 衛生専門課程 美容師科新設予定
9. 校訓
Every dog has his day. (みんな輝くときが来る)
10. 教育目標
日本人ならではの徳性・新旧の美意識に学び、日本流・新デザインを世界に問う
11. 設置学科 (平成27年度～)
 - イラストレーション科 (昼3年 男女 定員35名)
 - 広告・写真・Web デザイン科 (昼3年 男女 定員35名)
 - プロマンガ科 (昼2年 男女 定員40名)
 - ブライダル・トータルビューティー科 (昼2年 男女 定員40名)
 - 建築士・インテリアコーディネーター科 (昼2年 男女 定員20名)
 - マスター科 (昼1年 男女 定員5名)
12. 学生数 (平成26年5月1日現在) 169名
13. 教職員数 (平成26年5月1日現在) 56名
14. 学校建物面積 2115㎡

2 自己点検・自己評価委員会

1) 委員名簿

1. 学校長 中野勘次郎 (委員長)
2. 事務局長 藤原研一
3. 事務局 中野良太
4. 事務局 杉浦英樹
5. 教務部 池田孝司
6. 教務部 前田健一
7. 教務部 竹田侑里

2) 自己点検・自己評価制作の流れおよび委員会開催記録

- 平成27年1月12日 制作方針に関する担当者会議
- 平成27年1月16日 制作方針決定
- 平成27年3月5日 終業式にて平成26年度教育内容の全てが完了
- 平成27年4月13日 自己点検・評価委員会 第1回制作会議
- 平成27年4月16日 自己点検・評価委員会 第2回制作会議
- 平成27年5月9日 設置者への報告
- 平成27年5月21日 ホームページにて外部への公開

3 学校関係者評価委員会

1) 委員名簿

1. 阿部 徹 元静岡県教育長
2. 鈴木 かおる 株式会社浜松ビジネススクール 代表
3. 安武 伸朗 UX (User Experience) Shizuoka 代表
4. 原 大二郎 公益社団法人日本動物病院協会 副会長

2) 開催日・場所

- 平成27年6月10日 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー301教室にて開催

4 評価一覧

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検 自己評価	学校関係 者評価
1 教育理念・目標	①教育理念並びに教育目標が明確に示され、定期的に見直されているか	3	4
	②教育目標は卒業時の到達目標が読みとれるものになっているか	3	3
	③教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか	3	3
2 教育活動	①カリキュラムは教育目標が反映されているか	3	3
	②定期的なカリキュラムの見直しがなされているか	4	4
	③テキストや教材は適切なものを選定しているか	3	3
	④シラバスが作成され学生に配布されているか	3	3
	⑤授業の点検・評価が適切に実施されているか	3	3
	⑥資格試験の合格率および資格試験不合格者の対策はなされているか	3	3
	⑦評価は適切な方法で行われているか	4	4
	⑧進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	4	4
3 学生受入れ	①学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期、入学案内の内容および募集要項の内容は適切か	4	4
	②学校説明会、体験入学の時期、内容は適切か	1	2
	③入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	4	4
	④志願者状況、定員充足率はどうか	1	1
	⑤中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	4	4
4 教職員組織	①資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	4
	②専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	3	3
	③教職員の業務分掌は明確になっているか	3	3
	④教職員の能力、業務内容の評価を定期的に行っているか	4	4
	⑤教職員の資質向上のための施策は適切に構築されているか	3	4
	⑥教職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4	4

	評価項目《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検 自己評価	学校関係 者評価
5 施設・設備等	①講義室、実習室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	4	4
	②講義室、実習設備は整備され適切に管理されているか	4	4
	③図書室は適切に整備されているか	3	4
	④保健室は適切に整備されているか	4	4
	⑤教育用機器備品は整備されており活用されているか	4	4
	⑥職員室、事務室の管理は適切に行われているか	4	4
6 学生生活支援	①奨学金等、経済的支援は整備されているか	4	4
	②学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	4	4
	③各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	3	4
	④防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	3	4
	⑤進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	4	4
	⑥新たな求人開拓の努力はしているか	4	4
7 管理・運営	①理事会、評議員会は適時適切に開催されているか	3	3
	②就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	3	4
	③就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	4	4
	④組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	2	2
	⑤消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	3	3
	⑥個人情報保護法を遵守しているか	4	4
	⑦セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	4	4
	⑧財務分析比率は適切な数字になっているか	4	4
	⑨学校の財務情報を公開する適切な体制が整備されているか	4	4

4 評価の理由 (デザイン校)

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
1 教育理念・目標	①教育理念並びに教育目標が明確に示され、定期的に見直されているか	3	爽(爽やかに生きる)青(出藍の誉れ)の2文字と[ルネサンス]に込めた本校の基本理念を元に、行動の原点、校訓までを“不易のMission”とし、行動指針や教育目標を“流行のVision”として定め、教職員には原点確認研修資料で、学生には学生必携で提示している。同資料では実現のための具体的な方法が示されているが、実行を確認する計画は体系化、文書化されていない。	4	当校創設の熱い思いが教育理念等に表れている。学生・教職員一人一人がどのように具現化に努めたか、実行したかを評価するシステムがあるといいのではないかと感じている。PDCAのCAを大切にしたい。教職員・学生に対して、理念・目標・指標をマトリックス表で整理するのも考えられる。評価期間を短中長に分けて行うことも必要か。提示→教職員へ→ワークショップなど教職員自身の発案による気づきや解釈を開示するなど、新たな試みの検討が必要ではないか。提示→学生へ→就業後の勤務状況における成果調査(インタビュー)などは考えられないか。取り組み姿勢、見直しなど積極的に誠実と常々感じている。
	②教育目標は卒業時の到達目標が読みとれるものになっているか	3	到達目標は理念に基づき、“流行のVision”として、全学科共通で卒業後に実現する目標として文書化し明示している。卒業時の到達レベルは、学科毎に「学科運営方針資料」に文書化されているが、学生への明示方法は、体系化されていない。	3	①③に関しては学校側が主体で働きかける内容だが、②の到達目標の読み取りに関しては熱き志で入学している学生側がゴール設定し、行動計画・見直しをし、それを支援するのが学校の役割である。早めに課題取り組みに着手して頂きたい。
	③教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか	3	教育理念や教育目標が教職員・学生に周知されることが重要と考えている。教職員には浸透度を確認する試験を実施し、全職員が深く理解するように仕組化している。学生には入学説明会や学校長による授業にて周知し、その課題により浸透度を確認している。	3	「浸透」を中長期的にとらえる視点も大切なように感じる。教職員が、それぞれの授業に言葉や指導で具体的に実現できる仕掛けが今後は大切か。同窓会に多数参加する実績だけでも十分かと感じた。数字評価がむずかしい項目である。

評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		評価	コメント	
	評価	評価の理由			
2 教育活動	①カリキュラムは教育目標が反映されているか	3	教育課程を編成する為の学内における委員会組織は無く、学科内で検討し、学校長の承認を経て実働に至っている。その過程における議事録等は存在していない。しかし、職業実践教育の視点から適切な授業が運営されるよう、教育課程の編成においては教育課程編成委員会を実施し、外部の教育課程編成委員の意見を参考に編成している。その際、専門科目はもちろん、社会人教育も重視する観点から一般科目も必要量配分している。学生必携により授業時数や単位数は明示されており、授業方法も講義や実習など、教材や教育方法に関しても目的に合わせた最適な方法で実施している。	3	資格系の学科と文化系の学科の違いがあるが、教育目標をカリキュラムに具体化する場合、個々の授業の関連性や相対的な位置づけが明示されることで、反映の自己評価もより明快になるように感じる。
	②定期的なカリキュラムの見直しがなされているか	4	教育理念並びに教育目標や、教育課程編成委員会での検討を基に、年1回教育課程の見直しと改定を行っている。また業界の動向に合わせて、年度の途中であっても随時授業実施内容の改訂を行っている。	4	
	③テキストや教材は適切なものを選定しているか	3	テキスト選定には、教育課程編成委員の意見や、講師会における担当非常勤講師との打ち合わせを経て決定している。但し、相見積もりを取るなど、コスト管理に改善の余地がある。	3	コスト意識はもっと取り組む必要がある。必要・不必要の判断力も高めてほしい。
	④シラバスが作成され学生に配布されているか	3	全ての授業においてシラバスを作成し、教職員はファイリングされたものを保管し、教職員で共有している。しかし学生への配布は徹底がされていない。	3	「学生への配布が徹底されていない」のであれば「3」ではなく「2」か。
	⑤授業の点検・評価が適切に実施されているか	3	前期と後期の授業終了時に学生に対する授業アンケートを実施し、授業評価と教員に対するフィードバックを行っている。関連業界との協力は、教育課程編成委員会に授業アンケートを提出しているのみにとどまる。	3	外部の教育課程編成委員による授業参観とそのフィードバックは今後実施してほしい。教員相互の授業評価の機会が必要ではないか。授業評価に関する研修もあり得る。就職先やインターン先での評価を高めて、ヤル気・自信を持たせるため関連業界からの評価必要。
	⑥資格試験の合格率および資格試験不合格者の対策はなされているか	3	学科ごとに必要とされる資格取得に向け、取得率の目標を全国水準と比較した上で年度の冒頭に設定し、学生に対しその意義の解説、対応する授業による指導体制を整備している。また取得率の向上を目指した特別講座やセミナーは、一部の資格取得指導で行われている。指導方法と合格実績を照らし合わせ指導方法の改善は行っているが、不合格者及び卒後の指導体制は実施しているが整備されていない。	3	
	⑦評価は適切な方法で行われているか	4	学生には学生必携において成績評価の基準を明示している。講師は成績評価の基準を適切に運営する為、年二回の講師会を実施し、客観性と統一性を確保している。	4	
	⑧進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	4	学生には学生必携において進級、卒業の判定基準が明示されている。また学校長をはじめ全教職員による卒業判定会議、進級判定会議を行い、適切に運用されている。	4	

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
3 学生受入れ	①学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期、入学案内の内容および募集要項の内容は適切か	4	学生募集のために、3月末に学校案内パンフレット、募集要項、就職内定速報を作成し、入学希望者および高等学校等に配布している。また今年度は「自立力のススメ」と称した保護者向け学校案内を作成、配布することで、保護者への厳選した情報提供を開始した。また募集活動全般において、各種ガイドラインに準拠した活動を行っている。 担当者の説明や広報物については、事前研修やリハーサル、複数による内容校正により提供情報のチェックを進めているが、一部事前確認が行き届かないことがある。	4	⑤の成果が出なかったのは②だけでなく①のどこかに課題があると思われる。情報確認をはじめ、十分な分析が必要ではないか。高等学校教職員との接点の質(内容)を評価として明らかにする必要はないか。準備や確認、意見反映など積極的で、どの専門学校より高レベルであると思う。
	②学校説明会、体験入学の時期、内容は適切か	1	入学前々年の8月から前年の9月まで体験授業を合計10回開催した。また保護者説明会も同時開催し、保護者の理解同意促進に努めた。毎回趣向を凝らした体験内容やディスプレイをし、結果的に前年以上の来場数となったが、入学者の増員には至らなかった。	2	
	③入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	4	AO入試と推薦入試、一般入試の3つの入試方法で志願者の多様性に対応している。またAO入試と推薦・一般入試の入学者配分に配慮し、AO入試だけで入試が終わらない体制としている。 入学選考は担当者資料を作成し選考基準等を文書化するとともに、合否判定会議を開催し入学選考の公平性に努めている。	4	
	⑤志願者状況、定員充足率はどうか	1	資料請求数、体験授業来校数等、各種指標を整理し、月ごとイベント毎に目標設定および計画達成の進捗を管理している。4～5月頃までは概ね計画通りに進捗していたが、6月以降本校を最終的に志願する生徒数が計画と比べて大幅に少ないことが判明し、結果的に入学者が前年度を下回る結果となった。	1	昨年の結果数字により評価。厳しい現状から参加者目線を徹底して取り組む。在校生意見ももっと聴くべき。
	⑥中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	4	中途退学した事案は、学生別に担任が把握し、「退学抑止経緯報告書」で理由・実情を書面で共有・保管している。また、毎月の会議にて退学に至る可能性のある学生の実情を共有し、対策を講じている。また、学生相談室を設け、担任以外のカウンセラーが心理面、学習面で指導できる体制を整えている。	4	学生、保護者の立場に立ち積極的に取り組んでいる。

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
4 教職員組織	①資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学校方針として教員を専任・兼任含め、適正に確保することが重要と考えている。教員を採用する際、必要な資格等を求人票で明示し、履歴書・面接等で能力や資質を確認している。また、教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合した者を確保している。学則等により、専任・兼任、年齢、男女比等の教員構成を明示している。	4	学校の理念を共有できる資格・人間性・要件を備えた人財確保ができています。
	②専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	3	教員一人あたりの担当科目数・時間数は、適正な時間を算出し、計画前に把握・共有している。確定した教員一人あたりの担当科目数・時間数は、年度初めに担当部内で書類化しているが、学校として体系化した文書で共有されていない。	3	退職など急な対応に誠実さを感じ、学生たちへの影響は最小限にしている。
	③教職員の業務分掌は明確になっているか	3	教職員の業務分掌は、年度毎に「業務分掌表」により組織体制を整備し、文書化・共有している。専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制も、講師会で役割の違いを説明し連携している。また、授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組として、教育課程編成委員会を年2回実施し、指摘された改善に努めている。	3	年2回の講師会はもう少し回数を増やして共通理解を図ることも必要か。業務分掌は明確と思うが、取り組み必要時間などは経験・能力に応じているか。
	④教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4	教職員の評価を「実績評価」と「行動評価」に分け、年2回定期的に実施している。また、教員の募集、採用手続、昇格措置等について就業規定により、明確に定め、実施している。	4	自己啓発意欲に富む教員の自発的な学習を支援する仕組みがあれば、評価される。
	⑤教職員の資質向上のための施策は適切に構築されているか	3	教職員の専門性や教授力を授業アンケートや学生満足度調査等を通して年2回評価し、把握している。それを基に「教授力」の資質向上のための研修計画を定め、運用しているが、「専門性」に関しては必要に応じて運用しており、体系化されていない。また、「専門性」は、JAGDAや建築士会等の関連業界団体の会員となり、業界と連携して教職員の研修・研究に取り組んでいるが、教員個人の研究活動・自己啓発への支援などは、個別に必要に応じて支援しているが、体系化されていない。	4	充実した新任教員研修の実施など評価したい。高校への広報も兼ねて、高校教員の授業参観を通して意見等をもらったかどうか。他教育機関との連携(相互評価)や私学連盟の諸団体との協力など、地域性、専門性に特化しない、FD向上の施策の重要性を感じる。自己啓発意欲に富む教員の自発的な学習を支援する仕組みがあれば、評価される。学校も教職員側にも意欲があり、資質向上の取組みに積極的である。
	⑥教職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4	教職員は適切な人数を雇用し、滞りなく業務を遂行している。一例として、クラス担任制で運営しているため、常にクラス数以上の常勤講師を雇用している。採用の際に適切な広報を行い、必要な人材を確保している。また、採用手続や人事考課制度の規定も、明確化しており、適切に運用している。	4	

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
5 施設・設備等	①講義室、実習室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	4	関係法令に基づき、施設面積に対する定員と設備が整い授業運営が十分な環境でなされている。また、清掃を単位化し全館の清掃がなされている。	4	適切な清掃チェック項目は②の方がいいか。伝統的な清掃活動は是非今後も継続してほしい。大切な教育活動だと思う。
	②講義室、実習設備は整備され適切に管理されているか	4	学生が適切な環境で授業を実施するための施設を整備しているが、定期的な点検は、なされている物となされていないものがある。	4	
	③図書室は適切に整備されているか	3	図書室を専門教室として設置しており、必要な図書を完備している。図書活用の啓蒙は改善すべき点がある。	4	それぞれの専門性ごとに分散管理することは機能的である。今後更なる図書の充実に学生の要望も踏まえながら検討願いたい。また、他の教育機関、例えば静岡文芸大との連携も検討していいのでは。
	④保健室は適切に整備されているか	4	保健室環境に関して、学校医との連携のもと保健室は整備されており、各担任又は学生課が対応している。一方、年間一回(在学期間中2回)の健康診断を実施し、健康に対する啓発及び教育を行っている。また、メンタル面でのカウンセリング担当を設けている。	4	カウンセリングチケットは保護者も活用している。
	⑤教育用機器備品は整備されており活用されているか	4	教育用機器の整備・点検は、授業担当者で実施されている。	4	デザイン校には大規模な設備入れ替えがあり、整備に対する取り組みが評価できる。定期的な見直しの制度が効果的。
	⑥職員室、事務室の管理は適切に行われているか	4	職員室兼事務室を設けているため、適切に管理がなされており、清掃についても学生課と教員で定期的に行われている。	4	清掃管理は学校の売り、特色の一つであり、実行習慣が高い。

評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
	評価	評価の理由	評価	コメント	
6 学生生活支援	①奨学金等、経済的支援は整備されているか	4	特待生制度、通学支援制度、奨学生制度等により奨学金制度を整備しており、学費は3分割納入制度を用意し、家庭の経済事情に対応している。また入学前の保護者説明会や入学後の説明会で優遇制度関係資料の配布を十分行っており、相談への対応や実績の把握にも遺漏はない。大規模災害発生時等危急の際の支援制度は状況に応じて対応しており、制度としての整備はなされていない。	4	多面的、現実的な施策がある。保護者、学生の立場に立って取り組んでいる。
	②学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	4	学生相談は一般的には担任、就職相談は就職担当が対応できる体制をとっており、担任の他にさらに学科責任者や教務課長、事務局長等が相談内容に応じ対応している。また学生相談室を設置し、学内では話しにくい相談内容については、専門のカウンセラーが対応している。学生相談室の周知については、入学後の説明会やオリエンテーション、保護者会等で周知案内している。	4	引き受ける学生の選別も必要であると思う。より質の高い授業を実施するために公平に関わるクラス運営が重要。
	③各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	3	国内研修や海外授業、スポーツ大会等学生がかかわる学校行事についてはそのほとんどでアンケートを実施し、意見を収集している。また教職員については反省会等を即日実施またはグループウェアを活用して改善点等を収集し、次回へ活かしている。	4	反省会等の実施が即日、次に活かされている。
	④防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	3	登下校時の安全教育や監視カメラによる入館者チェックなどで、防犯体制を強化している。また今年度から入館にはカードキーを要する体制とし、平成27年度の教職員目標である「事件・事故・犯罪から在校生を守る」仕組みを強化した。	4	「命を守る」という視点から県でも様々な取組・対策がなされているので、参考にされるのもいい。職員の担当制が(研修含め)必要な印象を受けた。取り組み姿勢は高い。
	⑤進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	4	各学科、月別目標を設置し、担任教員及び就職部門とで就職部会を開催することで、学生個々の就職活動、業界の就職状況を把握、共有している。また、就職活動の準備、支援として学内で行う履歴書の書き方、面接指導などのセミナーを実施している他、関連業界の講師を呼びメイク・スーツセミナーを実施するなど業界への就職に向けての指導を行っている。関連業界との連携に関しては、インターンシップを通じて業界・職業理解を深め、合同企業ガイダンスにて各企業とのマッチングを図っている。	4	高いレベルで取り組んでいる。
	⑥新たな求人開拓の努力はしているか	4	学校案内を各企業へ送付し、求人票の依頼を行うとともに、就職部門だけでなく、担任も企業訪問を行い、企業からの要望を把握することで、適切な就職と早期離職を防ぐ指導を実施している。	4	きめ細かく精力的な求人開拓を今後も期待したい。

評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
	評価	評価の理由	評価	コメント
①理事会、評議員会は適時適切に開催されているか	3	H26年度は3回の理事会評議員会を開催した。定足数を充たし、適切な手続きで開催している。議事録に関しては毎回作成し保管をしている。議事録に関し一部作成上の不備があり修正した。	3	指導を受け止め、取り組んでいる様子が伺える。
②就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	3	諸規則、規程等は完備している。法令順守教育に関しては、教職員は新入社員研修時または適宜に、学生に関しては学生必携やその他必要資料を用いて教育を実施している。コンプライアンス窓口に関しては、担任等が常に窓口になっているが、仕組みとして文書化されていない。	4	事実上、4で良いか。
③就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	4	就業規則等の労働関係諸規定は法改正等必要な時期に見直しをし、教職員に説明の上で適正な手続きで改正している。また人事評価に関するマニュアルについては、教職員組織や学科編成の状況等に合わせて常に見直しをし周知している。また学則は主に学生募集開始時と教育課程の変更時の2回で変更届を提出し、適切に運用している。	4	適正改正が実施されているよう伺える。
④組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	2	学校運営に関する組織を作成している。また会議等の議事録は作成し、主にグループウェアで共有している。しかし会議については報告会議がほとんどであり、経営会議以外では決定権限や委員構成等の規定がなく、その都度必要なメンバーが招集され、議事の決定がないまま会議や委員会が運営されているケースがある。	2	「課題と対策」の内容を実行されたい。個人一組織における参画意識を上げていくための、業務を離れた相互理解、向上心を持つための研修などもあり得るかと感じる。教職員のアクティブラーニングを推進するための(管理ではない)風土や文化を作る難しさがあるが、次のステップに行くためには、30代、40代の方々のエネルギーをどう共有するかという連携が必要かと感じた。会議改善はどこにおいても最も重要だが、工夫されていると伺える。
⑤消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	3	消防計画、地震防災応急計画及び学校安全計画等は文書で規定し、整備している。また耐震化や消防説にの保守点検を法令通り実施し、有事の際に備えている。8月末には全学生合同の防災訓練避難訓練を実施するとともに、視聴覚教材を用いて地震防災教育を行っている。備品等の転倒防止策を強化する必要がある。	3	「命を守る」という視点から県でも様々な取組・対策がなされているので、参考にされるのもいい。・鈴木)年間予定に組み込まれればより良いと思う。
⑥個人情報保護法を遵守しているか	4	個人情報の保護に関しては、教員は主に学生個人情報を、事務局は志願者個人情報を取扱い、それぞれ文書およびデータの双方において適切に管理している。またwebサイトに関しては個人情報に類する情報をUPLしないことおよび個人情報が流出する恐れのある運用をしないことを基本方針とし、問題は発生していない。	4	今日的な大きな課題であり、不断に効果的取組を情報収集して、活用してほしい。意識は非常に高いと思う。
⑦セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	4	学生必携内でセクシャルハラスメント専用窓口を教職員並びに学生に提示している。またこれまでセクシャルハラスメントに該当する事案はない。現状、対応マニュアルはないため、事案発生時にはケースバイケースの対応が求められる。	4	今日的な大きな課題であり、不断に効果的取組を情報収集して、活用してほしい。整備されており、また教職員の意識も高いと思う。
⑧財務分析比率は適切な数字になっているか	4	現在まで健全な経営を継続中である。毎月月末に幹部会議を開催し、応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を共有している。毎月稼働6日目の月次決算において財務分析(収支バランス、コスト管理含む)を実施している。毎年3月、5月の理事会評議員会の際に設備投資計画が適切か協議している。	4	
⑨学校の財務情報を公開する適切な体制が整備されているか	4	平成25年度より財務状況をホームページに公開している。特に財務状況は外部から学校の実態を正しく理解されるよう、法人財務ではなく学校別の財務状況を作成し、公開している。また財務帳票等は会計士の指導の下、適切に作成管理している。	4	